

慶應義塾體育會水泳部競泳部門

KEIO UNIV. SWIM TEAM





私たちは日本学生選手権水泳競技大会において総合優勝することを目標に活動している、慶應義塾體育會水泳部競泳門です。

チームは内部進学してきた部員とAO入試や指定校推薦、一般入試という入試制度で入学してきた部員とで構成されています。現在、29人中11人がAO入試や指定校推薦、自己推薦、Fit入試、一般入試による入学者となっております。(2017年3月現在)

慶應義塾大学では、一般入試のみならず受験者の強みを生かすことのできる受検方法が複数実施されています。その為、多くの選択肢の中から自分に合った受検方法を選ぶことができます。スポーツ推薦とは違い、どの試験方法にも合格の確約はありませんが、入学への強い意志や学びへの意欲があれば、合格を掴むことができます。

本ページには、選手、マネージャー、学生コーチ、それぞれの目線から入試や部活について記された体験記が掲載されています。選手のみならず、学生コーチやマネージャーも部として必要不可欠な存在です。部員それぞれが自分の特性を生かすことのできる形で部に関わり、学生が主体となって日々の練習に取り組んでいます。自分達には何が必要かを考えて、主体的に競技と向き合うことのできる環境は、この體育會水泳部競泳部門の一番の特徴であると言えます。

学生同士で議論し合いながら、切磋琢磨して成長していくことは慶應義塾大学の基本理念である独立自尊の精神を体現しています。自分自身で試行錯誤しながら水泳と向き合う意欲のある学生の入部をお待ちしています。

受験にあたっては、我が部に在籍する合格経験者を中心に、可能な限り最大のお手伝いをさせて頂きたいと考えております。皆さんの積極的なチャレンジをお待ちしております。

Ryoma Tanaka 環境情報学部

Athlete 田中 良磨

私が慶應義塾を目指そうと思った理由は大きく分けて三つあります。一つ目は慶應義塾の持つネームバリュー、二つ目は学生主体が故に自ら考え水泳技術の向上に努められる環境、三つ目は実際に慶應義塾に通われている先輩方から溢れる、余裕のある知性に憧れてのことです。そして実際に慶應義塾に入学して、それら全てを実感することができております。私が一般入試に向けて本格的に勉強を始めたのは11月でした。インターハイ、JO、学園祭と行事が続いたことや、AO入試対策を並行して行っていた事が原因です。しかし、塾や学校の先生のご指導のもと、赤本を元に慶應義塾に特化した勉強をし続けた結果、11月からの勉強でも合格することが出来ました。合格できた一番の要因は、やるべき事が明確になっていたことだと思います。他の一切の無駄を省いた、“最短経路での合格”を実現できたのです。道順さえ明らかになればあとは突っ走るのみです。慶應義塾は本当に素晴らしい大学ですし、水泳にも思う存分打ち込めるので、大学生活としては非の打ちようがないほどです。受験は大変ではありますがあつという間に終わってしまうので気合いと根性で乗りきってしまいましょう。そのあとは華の大学生生活が待っています。受験生の皆さん、頑張ってください!

Conqueror

Akane Takiyama 文学部

Staff 瀧山 茜音

文学部自主応募入試で文学部に入学致しました。慶應義塾に入学が決まり、水泳部に入ろうと思ったきっかけは練習見学と春の六大学対抗戦です。元々水泳が好きで何らかの形で関わりたいと考えており、まずは見学をさせて頂きました。その際、部員が練習中とその他でオンオフが切り替えられていたところが魅力的に見えました。また六大学対抗戦では東京の六大学ならではの盛り上がり慶應というチームとしての誇りを感じました。入部して練習の日々を送るなかで、部員の笑顔や苦い顔、悔しそうな顔など様々な表情を目にした瞬間が、水泳部に入部してよかったな、とやりがいを感じる時です。部員の表情が日々変わって行くのを近くで見て、学ばされることがとても多いです。練習と授業ら大学生としての自分の時間をうまく使い分け、充実した日々を送っております。慶應がさらに強くなるため、ぜひ一緒に良い陸を作って行きましょう!

Mutsuko Hayashi 環境情報学部

Athlete 林 睦子

入学を考えたきっかけは、従兄弟が早慶戦で活躍している姿をテレビで拝見し、私も水泳で早慶戦に出て活躍したいと思ったからです。AO入試を選んだきっかけとしては、高校一年から三年間海外へ水泳留学をしていた事もあり、自分のやってきた事をアピールしたいと思い、AO一期への出願を選びました。私はオーストラリアの高校に通っていた事もあり、なかなか日本でAOの対策や先輩方のお話を聞く機会がありませんでした。しかし、一時帰国をした際に塾へ通ったり水泳部の先輩方に面接練習や志望理由書の添削をして頂いたりしました。入部後は慣れない事も多く、湘南藤沢キャンパスまで通うのは大変でしたが、すぐに慣れ大学でも新しい交友があったりと充実した毎日をごさせて頂いております。慶應義塾は縦のつながりに加え横のつながりもとても強く、自分とは違う分野の人と関わることで刺激され、自分自身を高めることが出来ます。も自分の好きな分野の授業を自由に履修出来るので、部活と勉強の兼ね合いも問題なく出来ます。楽しい大学生活が待っていますので、受験対策だけは怠らず頑張ってください。自分のやってきた事、慶應に入りたいという強い熱意があれば必ず結果はついてきます。自信を持って頑張ってください。

Conqueror

Hikari Kojima 環境情報学部

Athlete 小島 日佳里

高校一年生の頃に進路を考え始め、学業と水泳を両立できそうだと感じ、第一志望に決めました。中でもSFCはあらゆる分野のプロフェッショナルがいること、自分の好きなことが学んでいけることに魅力を感じ、より合格できる可能性を増やすためにAO入試への挑戦を決めました。慶應の受験を決めたのが早い早かったこともあり、受験への切り替えというものは特にせず、毎日少しずつAO入試の書類作成や一般入試に向けての勉強を行っていました。志望理由書はあえて人の力は借りず、

SFCで学んでいきたいことと、頑張ってきたことを明確化させながら作成しました。私はこれといって誇れる水泳の成績はありませんでしたが、アメリカ留学などの経験を自分の強みに変え、そこから何を学んだのかもアピールできるようにしました。入部後の勉強と練習の両立は大いに可能です。SFCは必修科目も少なく、自分の好きなことが学んでいけるという点でも勉強が苦になりません。AO入試の挑戦は自分を見つめ直すという意味でも本当に良い経験になると思うので是非、前向きにチャレンジしてみてください。応援しております。



Taishi Natsume

経済学部

Athlete 夏目 大志

付属校である慶應義塾高校出身の僕は高3で大怪我をし手術をしました。夏の試合を全て棒に振り入院していたところ、大学競泳の方々が大人数でお見舞いに来てくださいました。たまに大学と練習する機会はありませんでしたが、そこまで親しい関係ではありませんでした。にもかかわらず僕のお見舞いに来てくださいました。とても励まされました。もちろん最後のインターハイを逃した悔しさもありましたが、必ず大競に入りこの恩を返したい、このチームで勝ちたいと強く思いました。誰に対しても思いやる気持ちがあることに感激しました。今ではそのチームの一員になれている自分が誇りです。

最初は色々大変で、授業や部活、男子は寮生活と、慣れるまで時間がかかりました。学年が上がるにつれ授業にも余裕ができ、部活には打ち込めるようになります。男子は寮で家事などは自分達で行いますが、自炊したり、風呂で語り合ったりと楽しいことも沢山あります。

大学で部活に注いだ時間は社会人になってからは一生の宝となるでしょう。部活を通して人間として一回りも二回りも成長することができるでしょう。是非僕たちと最高の大学生活を送りましょう。

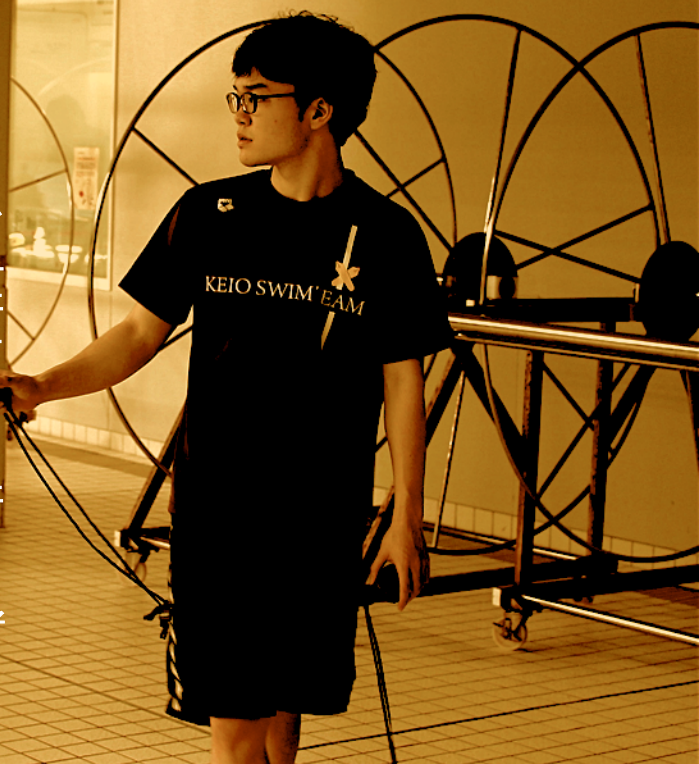
Conqueror

Makoto Watanabe

商学部

Coach 渡邊 充

学生コーチと聞いて皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。スイミングクラブのコーチを想像する方が多いと思います。一つ下の後輩や、同期、はたまた先輩までも指導します。ただやれと言われてやるような選手はいません。一緒に考えながら、学生主体を活かしながら速く泳げるようにするために努力します。学生コーチをやって一番うれしいことはどんな状況でも選手がよい記録で泳いだ時です。どんな試合でも練習でもいい顔をしているだけで雰囲気が変わります。集中しているとき、悔しがっているとき、どんな時でも速くなりたい気持ちが伝わってくるとサポートしたくなります。メニューを作ることが大きな仕事ですが、選手のために何ができるか、今この瞬間何をすればいいのか、常に考えながら取り組んでいます。もちろん楽しいことばかりではありません。自分の時間などほぼありません。泳ぐのは自分ではないので結果は思うように出ません。しかし、大好きな水泳、大好きな慶應にすべてを注げます。なにか新しいことを始めてみたい、自分の世界とは違う世界に飛び込んでみたい方は是非。一回の練習で選手を速くしてみろ。さあ。



Ai Komatsu 法学部政治学科

Athlete 小松 あい

家族など周りの人が慶應出身だったということもあり、慶應の素晴らしさをたくさん聞いており高校一年の頃から慶應に行きたいとは思っていました。それが何が何でも入学したいと変わったのは二年生の頃に慶應の練習に参加させて頂いた際に、全員で盛り上げる姿を見たり、姉の試合を見に行き行って全員で応援している姿は、今まで高校生が2.3人のクラブ練習だった私には魅力になり絶対慶應に入り水泳をやろうと決めました。そこで私はどうすれば私が慶應に合格できるか様々な方法を探し、2つ見つけました。

1つは指定校です。これは高校が推薦してくださり合格を目指す受験方法です。一見楽な方法ですが、日頃の生活態度、授業態度、テスト結果などが反映するので、地道に根気強く頑張る必要があります。2つ目はFIT入試です。これは地方出身者にも合格できる機会を与えてもらえるため私には最高の受験方法でした。何が何でも慶應に入りたい私はこの2つで勝負をかけようと決めました。

高校2年生の時に生活リズムを変えました。朝1時間、放課後1時間自主学習を取り入れました。内容は受験勉強ではなく授業の予習復習です。定期考査直前に普段の生活を大幅に変えることなく良い結果を得ることができるようになりました。おかげで水泳への影響も最小限で抑えることができました。FITは小論文も試験内容として含まれていたの、受験1ヶ月前から国語の先生からご指導を賜り、1日に800字の小論文を2本行い、添削、再提出を繰り返すという生活を送りました。おかげで書くことには慣れ、本番では考えるよりも前に手が動くまでになりました。以上2つのことを徹底的にやったおかげで指定校も頂きFITも合格、更に北関東甲信越ブロックでの優秀者対象奨学金を頂ける成績を残す事が出来ました。

入学後は水泳部に入り毎日練習しています。それまでの自転車30分の通学が電車通学となり、ただ通うだけでも初めの頃は疲れていました。家事も自分でやるので生きる術を今のうちに身につける練習だと思って頑張っています。しかし、高校と違い授業数が少ないので勉強時間や、休息時間は確保できています。両立は慣れてしまえば出来るものだ実感いたしました。この約1年間、大変身になる経験をさせて頂いております。必ず将来役に立つと思います。地方出身者にもチャンスはあります。ぜひ慶應大学を受験してみてください。

IO SWIM TE

慶應義塾大学の入学試験は、入学が保証された推薦や入学試験の方式はありません。受験方法は毎年変更されますので、詳しくは「慶應義塾大学の学部入学案内」WEBサイトなどをご覧ください。